

DATA FILE



名 前	MARCASITE (マーカサイト) / 白鉄鉱
化学組成	FeS_2
色	黄色
光 沢	金属光沢
蛍 光	なし
条 痕	灰黒色
劈 開	明瞭
断 口	不平坦
硬 度	6 ~ 6.5
比 重	4.9

はく てっ こう

白鉄鉱

MARCASITE

金属光沢を示す黄色の白鉄鉱は、硫化鉱物のなかまで、鉄の原子1個に硫黄の原子が2個結合している。

熱水の作用によってできた熱水鉱脈中の、低温のところに産出する。

方鉛鉱の上についている白鉄鉱。アメリカのオクラホマ州産。

素焼きの陶板にこすりつけると灰黒色の条痕が残る。

劈開は明瞭。ハンマーでたたくと不平坦な断口があらわれる。

英名の「マーカサイト」は、アラビア語の「マルカシタ」に由来するが、この言葉はもともと黄鉄鉱やそれに類似したものに使われていたようだ。

結晶は斜方晶系で、ふつうは板状やピラミッド型をしているが、産地によっては腎臓型や球形のものや、双晶になっているものもある。

硫化鉱物

黄鉄鉱と同じ化学組成

かつて、同じ化学組成で晶系の違う黄鉄鉱であると考えられていた白鉄鉱は、1845年、オーストリアの鉱物学者ウィルヘルム・フォン・ハイディンガーによって独自の鉱物として分類された。

白鉄鉱と黄鉄鉱は、見た目がよく似ているため、間違えられることが多いが、斜方晶系の白鉄鉱に対し、黄鉄鉱は等軸晶系と、結晶の形を調べれば両者を容易に判別できる。

ハ

白鉄鉱



▲佐渡で産出した白鉄鉱。(櫻井コレクション)

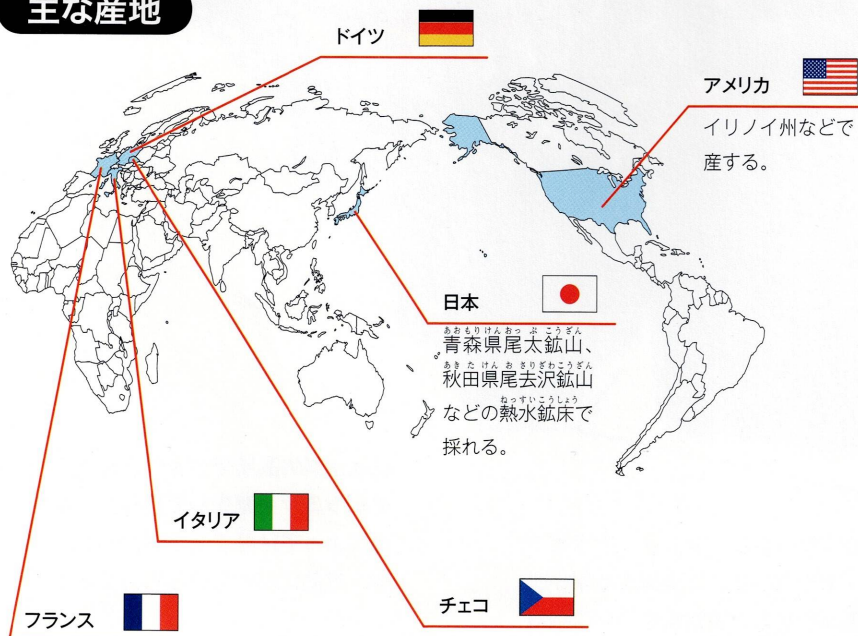


◀トサカ状の集合体になった白鉄鉱。

密封容器で保存

白鉄鉱は空気に触れるとすぐに分解して硫酸第一鉄に変わり、ぼろぼろにくずれてしまう。その反応速度は、同じ成分を持つ黄鉄鉱より速いので、密封可能な容器に入れて保存するなど、取り扱いには注意が必要。また長時間、光の中に置いておくと、表面が黒ずんでくるが、汚れは乾いた布でぬぐうだけにしておく。

主な産地



▶白鉄鉱の団塊。